

# ストックの4～5月出荷に適した播種時期 及びトンネル高温処理期間

～ 1月播種、6週間のトンネル高温処理で品質アップ ～

## 1. はじめに

和歌山県におけるストック生産では、4～5月出荷作型を導入する動きがみられる。しかし、この作型では、定植が低温期にあたるため切り花長が短くなりやすく、品質低下が問題となっている。そこで、定植後の苗をトンネルで被覆して高温処理を行うことで、切り花長を確保する技術の開発を目指している。ここでは、1月および2月播種におけるトンネル高温処理期間が生育と開花に及ぼす影響について検討した。

## 2. 材料および方法

材料には、‘アイアンホワイト’、‘アイアンマリン’を供試した。2018年1月10日および2月13日に200穴セルトレイに播種し、それぞれ2月13日、3月14日に12cm間隔で6条として栽培ベッドに定植した。定植後、すぐにトンネルで被覆して高温処理を行った。処理期間は、①2週間、②4週間、③6週間とし、対照としてトンネル被覆を行わない無処理区を設けた。

## 3. 結果

‘アイアンホワイト’では、いずれの播種日とも高温処理を行うことで無処理より発蕾、開花が遅くなる傾向がみられ、その傾向は、処理期間が長いほど顕著であった。また、2月13日播種における開花日は4週間処理で5月24日、6週間処理で6月1日と遅かった(表1)。

切り花長は、いずれの播種日においても高温処理期間が長いほど長く、6週間処理で最も長くなった(図1)。また、切り花重は、高温処理をすることによって無処理より重くなる傾向にあり、1月10日播種では、6週間処理が、2月13日播種では、2週間処理が最も重くなった(図2)。一方、2月13日播種の6週間処理では、一部の個体で花弁の展開不良等の奇形花の発生が認められた。なお、‘アイアンマリン’についてもほぼ同様の傾向がみられた(データ省略)。

表1 播種時期および高温処理期間が発蕾、開花に及ぼす影響

播種日	処理期間	発蕾日 (月/日)	発蕾日数 (日)	開花日 (月/日)	倒花日数 (日)
1月10日	無処理	4月13日	93a	5月 1日	112a
	2週間	4月14日	94a	4月30日	110a
	4週間	4月14日	94a	5月 2日	113a
	6週間	4月21日	101b	5月 8日	119b
2月13日	無処理	4月24日	70a	5月11日	87a
	2週間	4月28日	74a	5月14日	90a
	4週間	5月 7日	83b	5月24日	100b
	6週間	5月17日	93c	6月 1日	108c

供試品種：アイアンホワイト、高温処理：農業用ビニールフィルム(厚さ0.1mm)で常時被覆：  
※異なるアルファベット文字間にTukeyの検定により5%レベルで有意差有り

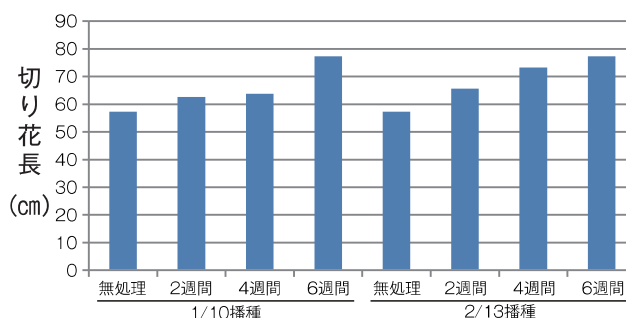


図1 播種時期および高温処理期間が切り花長に及ぼす影響

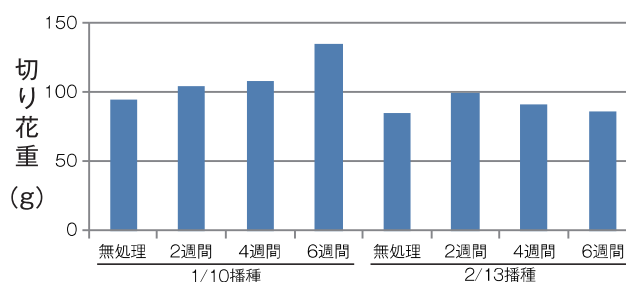


図2 播種時期および高温処理期間が切り花重に及ぼす影響

## 4. おわりに

以上のことから、1月播種、定植後6週間の高温処理により5月に出荷でき、切り花品質が向上することがわかった。今後、電照栽培による年内開花技術(第131号で紹介)と組み合わせ、同一圃場での年2回作付け体系(年内出荷+4～5月出荷)の可能性について、検討していきたい。

(栽培部 宮本芳城)